



第12期 中間事業報告書

2004年8月1日から2005年1月31日まで

Contents

プロフィール	1
ライティング・ソリューションで社会に貢献	
財務ハイライト	2
トップインタビュー	3～5
社長に聞く、社長が答える経営戦略	
トピックス	6
R&D	
工業用LED照明事業	7～8
農業用照明分野	9～10
顕微鏡用照明分野	10
連結財務諸表	11～12
個別財務諸表	13
会社概要	14

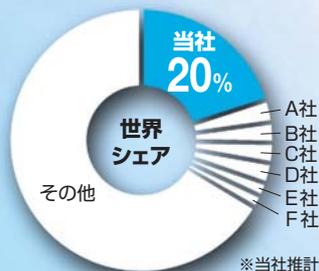
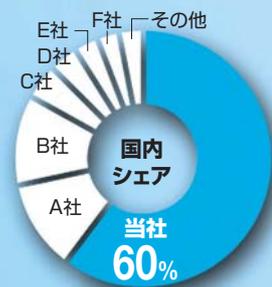
ライティング・ソリューションで社会に貢献 —— CCSは光の世界企業を目指します。

CCSは生産現場で使用される画像処理用LED照明の専門メーカー。私たちの照明は主に半導体・電子部品の検査などに使われています。最近では自動車、食品、医薬品の生産現場においても画像処理用LED照明の需要が拡大しておりCCSの事業領域はますます拡がりを見せています。当上半期にはベルギー、シンガポールの現地法人を加え世界四極体制が整いました。

画像処理用LED照明で国内シェアNo.1を確立

CCSの画像処理用LED照明は、一般には馴染みの薄いものですが、生産現場における部品やユニットの検査・組立の精度を左右する、きわめて重要な役割を担っています。画像処理システム自体の技術が向上した今では、照明の良し悪しこそが画像処理の成功の鍵を握っている、といわれています。

この画像処理用LED照明分野で、CCSはNo.1の技術力とノウハウを駆使した独創のライティング・ソリューションを提供。国内シェア約60%、世界シェア約20%のNo.1メーカーとして、信頼と期待を集めています。



企業理念

光を科学し社会に貢献する

企業ビジョン

光の世界企業を目指す

顕微鏡用照明分野

顕微鏡に最適なLED照明を開発し、すでに世界の4大顕微鏡メーカーへの採用が決まっています。



農業用照明分野

LEDの特性とCCSの技術を融合し、植物育成用LED照明パネルや装置を商品化。野菜の工場栽培による安定供給に貢献します。

工業用LED照明事業



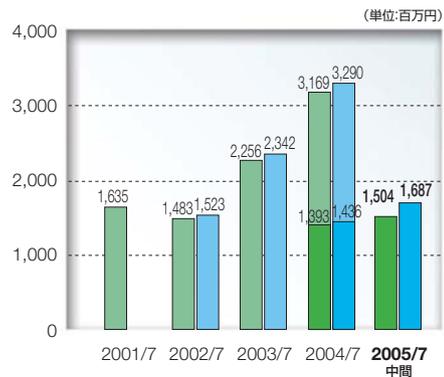
医療用照明分野

歯科用レジンの硬化に用いるLED照射器を開発し、歯科器材メーカーへ納入しています。そのほか光治療器具の研究・開発も進めています。

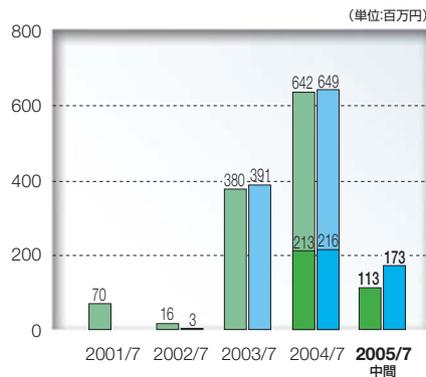


画像処理用LED照明で培った技術を応用し、新規事業の確立へ

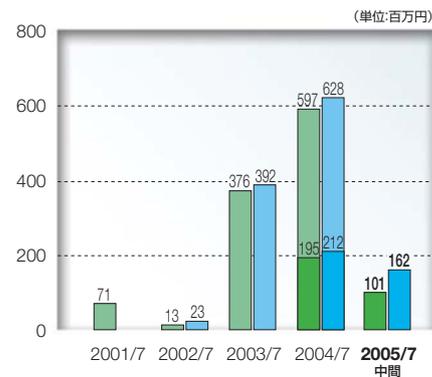
売上高



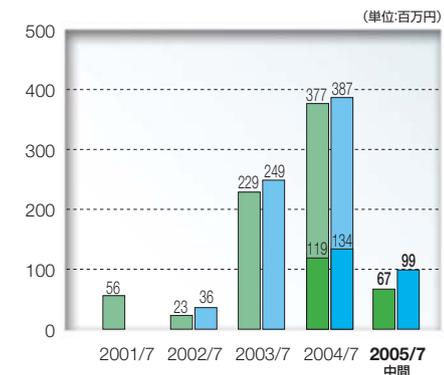
営業利益



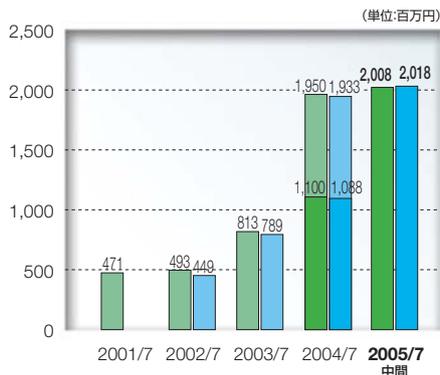
経常利益



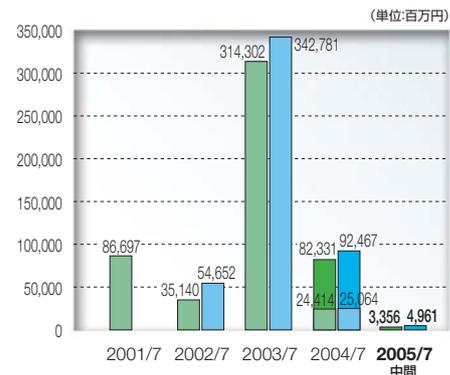
中間(当期)純利益



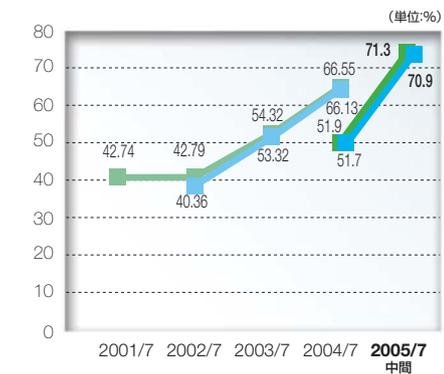
株主資本



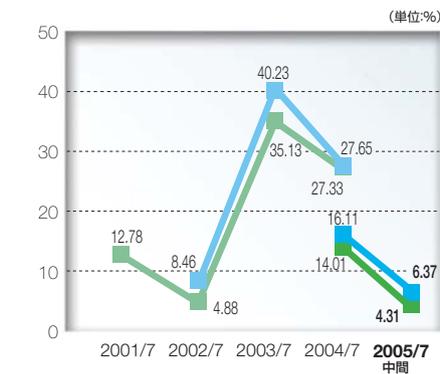
一株当たり中間(当期)純利益



株主資本比率



ROE



ROA



社長に聞く、社長が答える経営戦略

2004年6月に株式上場を果たしたCCS。
同8月1日からスタートした第12期上半期の業績と
下半期以降の経営戦略について
社長自らが株主の皆さまに説明いたします。



代表取締役社長

米田 賢治

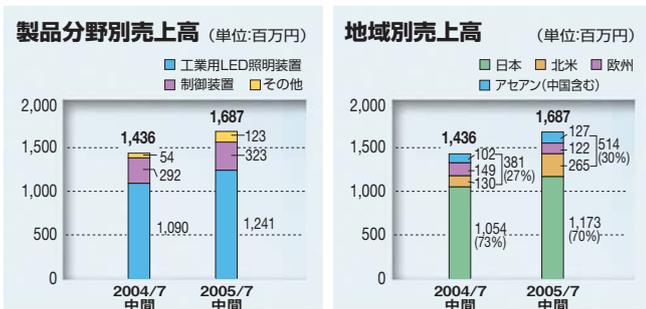
? 当上半期の業績はどうでしたか。またその要因は？

! シリコンサイクルの影響を受けましたが、
自動車、食品・医薬品業界の開拓に注力するなど、
対策も進んでいます。

当上半期の売上高は、1,687百万円(前年同期比17.5%増)、経常利益は162百万円(前年同期比23.5%減)、純利益は99百万円(前年同期比26.4%減)となりました。

増収ながら、その伸びが17.5%にとどまった理由は、当社の売上構成比の約50%を占める電子・半導体業界が、第2四半期以降、設備投資の手控えや生産調整に入ったこと、いわゆる“シリコンサイクル”の影響を受けたためです。これを回避するために、すでに自動車業界と食品・医薬品関連業界向けのマーケティング活動を強化し、ハロゲン置き換えスポット照明やラインセンサ向け照明を開発しました。これまでは検査工程に使われるのが一般的だったLED照明が組立ラインの“位置決め”にも使われるようになり、対象市場と用途がますます広がりました。特に有望なのは自動車業界で、国内の大手自動車メーカーに当社のハロゲン置き換えスポット照明が順次採用されています。

また、減益となった理由は、自動車、食品・医薬品業界向けの新製品開発および新規事業の立ち上げに伴う研究開発費および販売促進費が増加したためです。



海外戦略において何か新しい展開はありましたか？

当上半期にいよいよ世界四極体制が整いました。

当上半期には当社の代理店であるシンガポールのRDV(S)PTE LTDを2004年9月に子会社化して、アセアン市場での提案・販売力をさらに強化しました。また、成長著しい中国に関しては、2003年9月に上海駐在員事務所を開設し、中国政府関連を中心に画像処理における照明の重要性の啓蒙や当社製品の販売促進などを積極的に推進しています。そのかいあって、「LED照明といえばCCS」という確固たる地位を獲得しつつあります。

ヨーロッパ市場に対しては2004年11月、ベルギー・ブリュッセルにCCS Europe NV (CCSヨーロッパ社) を開設しました。これにより、1999年に設立したCCS America Inc. (CCSアメリカ社) とともに、北米・欧州・アセアン・日本の世界四極体制が整いました。世界各地に拠点を持つ画像処理用LED照明メーカーは当社だけ。全世界でサポートできる安心感・信頼感から、とくに世界中でビジネスを展開するグローバル企業からCCS製品を採用いただくケースが増えています。

自動車関連分野は海外でも注力しているのですか？

アメリカを中心に採用が進んでいます。

自動車産業の盛んなアメリカとドイツで注力しています。特にアメリカ市場において好調で、世界No.1の画像処理システムメーカーの装置に搭載されるかたちで自動車メーカーおよび部品メーカーに普及しています。

またドイツではCCSヨーロッパ社の現地採用のメンバーによる活動が本格化しています。工業用LED照明を熟知した社長および画像処理業界を熟知したセールスマネージャーが、自動車メーカーに対してLED照明の利点を直接アピールし、代理店に依存しない、積極的な提案営業が可能となりました。ヨーロッパは環境先進国であり、ハロゲンの50～100分の1の低消費電力で長寿命、そしてCO₂排出量を大幅に削減するなど、環境負荷の少ないLED照明への置き換えが急速に進むものと期待しています。

2005年1月、エレクトロテスト・ジャパンに出展

2005年1月19日～21日、東京ビッグサイトにて開催された「第22回エレクトロテスト・ジャパン」に出展しました。この展示会は、エレクトロニクス実装、半導体、基板製造に関する検査・試験・測定機器の日本最大の専門技術展。当社は、ハロゲン置き換え照明やラインセンサ向け照明などの新製品を中心に、カスタム照明・開発品などの数々を紹介したほか、LED照明の環境配慮性をアピールし、連日、多くの来場者から注目を集めました。



**？ 新規事業において
新しい動きはあるのでしょうか？**

**！ 特に顕微鏡用照明分野において
下半期に成果があがると見込んでいます。**

まず早期の成果が期待できるのが顕微鏡用照明分野です。独自の集光技術により今までにない高照度を実現し、顕微鏡に最適なLED照明を提供できるようになったことで、世界の4大顕微鏡メーカーへの採用が決定しました。当社の技術が世界のトップ企業に評価された証であり、この顕微鏡用照明分野を新たな事業の柱に育てていきます。

また食糧危機・自給率低下の問題解消への貢献を目指した農業用照明分野では、研究用途に向けた製品開発・販売に努めるとともに、「農業の工業化＝植物工場」の可能性を探求してきました。2005年3月には千葉県野田市に植物育成実験プラントが完成。6月初旬頃には1日5,000個程度のレタス類を市場に出荷する体制を整える

2005年5月、愛知万博に植物育成用照明ユニットを出展

2005年日本国際博覧会(愛知万博)で5月12日～22日に開催される「21世紀の光技術を展望する特別展～光未来展」に、CCSが植物育成用照明ユニットを出展することが決定しました。植物の育成に必要な光環境を生み出す、最新「LED菜園」として、地球と人に優しいCCSの農業用照明技術を来場者や各種メディアに広くアピールします。(会場はタイムシェア型パビリオン「モリゾー・キッコロメッセ」)



予定です。この施設は、実際にLED照明を使って野菜を生産し、その事業採算性を検証するという目的を持つほか、植物工場用照明の研究開発をするためのパイロットプラントの役割も担っています。

さらには、医療用照明分野において2005年2月より歯科用レジン硬化に用いるLED照射器を歯科器材メーカーへ納入しています。

**？ 通期の見通しは？
業績向上に向けた戦略は？**

**！ 新製品を立て続けに市場投入し
新分野開拓を積極化します。**

当上半期はシリコンサイクルの影響で厳しい業績となりましたが、すでに進めている自動車、食品、医薬品業界向けの製品開発に注力し、当下半期には数機種の市場投入を予定しています。これらの新製品はいずれも従来にないインパクトのあるLED照明で、「LEDは暗い」というイメージを払拭する明るさが特長です。例を挙げれば、食品、医薬品関連分野ではラインセンサ向け照明、自動車の組立に使うハロゲン置き換えスポット照明などです。いずれも対象マーケットが大きく、積極的な販売促進を図っていく方針です。さらに新規事業においても、顕微鏡用照明分野、医療用照明分野の成果を見込んでいます。

以上によって、通期の見通しといたしましては、売上高3,780百万円(対前期比14.8%増)、経常利益630百万円(対前期比0.3%増)、純利益375百万円(対前期比3.1%減)と予想しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともいっそうのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2005年3月 代表取締役社長 米田 賢治

当上半期の主要な動きを紹介します。

2004

8月

高輝度スポット照明「HLV-24-3W」を発売

高輝度のHLVシリーズに従来品より3倍の均一度と2倍の明るさを実現した新製品が加わりました。ハログゲン照明に代わる画期的な製品です。

HLV専用電源「PJシリーズ」を発売

高輝度スポット照明HLVシリーズの専用電源です。定電流制御により優れた調光が可能です。

9月

RDV (S) PTE LTDの株式取得(子会社化)

これまでアセアン地域における代理店であったRDV(S) PTE LTDを完全子会社化しました。これによりアセアン地域を統括する当社の現地法人となりました。

植物育成装置「INS-96」を発売

倍率可変マクロレンズ「SE-16シリーズ」を発売

11月

欧州現地法人CCS Europe NVをベルギーに設立

ヨーロッパ市場の顧客に対してもCCSのライティングソリューションを提供できる体制を整えました。

12月

癒しのあかり「Athena」(アテナ)を発売

2005

1月

実体顕微鏡用LED照明「CSR」を開発

独自の集光技術により、驚異の明るさを実現しました。市場の反響は大きく、主要顕微鏡メーカーから高い評価を頂いています。

第5回国際バイオEXPO2005に出展決定

東京ビッグサイトにおいて5月18日～20日に開催されるアジア最大のバイオテクノロジー展に植物育成装置およびユニットを中心に展示します。

第5回光ナノテクフェア2005に出展決定

パシフィック横浜において6月8日～10日に開催される光学顕微鏡関連の国内最大の展示会に、各種顕微鏡用LED照明ユニットを展示します。

植物育成装置「INS-96」

LEDを光源とする植物育成装置「INS-96」の販売を開始しました。すでに世界の研究者や農業関連学会から多くの引き合いをいただいています。多種多様な研究ニーズに応える環境制御が可能な装置として注目を集めています。



倍率可変マクロレンズ「SE-16シリーズ」

レンズの明るさ、そして従来のマクロレンズのように倍率の違うレンズを数本準備する必要もなく、1本で安価で容易に倍率変更できるのが特長です。CCSのLED照明と併用いただくことで最適なライティングシステムが可能となります。



癒しのあかり「Athena」(アテナ)



音楽のリズムと強弱に合わせてLEDの光がロウソクの炎のようにやさしくゆらぎ、耳と目で楽しむことができます。明るさとゆらぎは5段階で調整が可能。現代のストレス社会を生きる人たちにリラックス効果を与える商品として人気を集めています。



CCSの技術を結集した主力製品が高い評価を獲得



直射光型リング照明

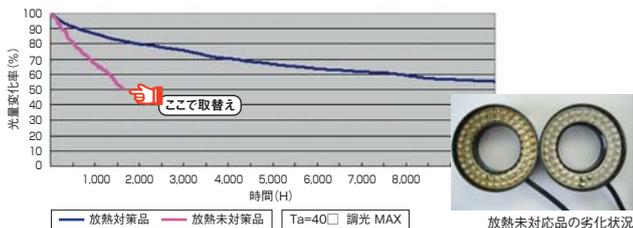
LDR2シリーズ

独自の新しい放熱構造によって光度劣化の原因となる温度上昇を大幅に抑え、長寿命化を実現。この特長が幅広い業界のユーザーに支持されています。

CCSの基本技術であるフレキシブル基盤に放熱構造をプラス。

LEDを傘状に高密度に配置することで非常に明るい光量が得られるほか、

■LDR2-90SWと放熱未対策品との寿命比較



高輝度スポット照明

HLVシリーズ

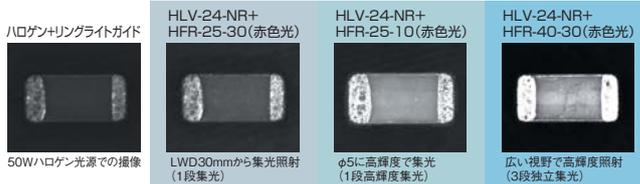
今までなかった高光度を実現。ハロゲンに置き換わる環境に優しい照明。LED素子から照射された光が集光レンズで高密度に集光される独自構造で、従来品の10倍以上の明るさを実現。光の拡散も防げるため、高コントラスト撮影が可能。ハロゲンに置き換わる照明として各社から高い評価をいただいています。

今までなかった高光度を実現。ハロゲンに置き換わる環境に優しい照明。

LED素子から照射された光が集光レンズで高密度に集光される独自構造で、従来品の10倍以上の明るさを実現。光の拡散も防げるため、高コントラスト撮影が可能。ハロゲンに置き換わる照明として各社から高い評価をいただいています。

■ハロゲンとの比較 (チップ部品の撮像例)

撮影条件 シャッタースピード:500μsec(1/2,000秒)、レンズ:同軸付2倍マイクロレンズ、調功:MAX



技術セミナー ハロゲン照明と比較したLED照明の優位性は?

LED照明は、ハロゲン照明の10倍以上も長寿命で消費電力は50~100分の1程度。しかもハロゲンのように突然球切れを起こすこともありません。消費電力が少ないため、ハロゲンをLEDに置き換えることで、二酸化炭素の排出量を97%削減でき、地球温暖化防止につながります。

二酸化炭素排出量比較

	LED照明	ハロゲン照明
二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> ● 月間消費電力 1.4kW (年間消費電力) × 720h (24時間 × 30日) = 1,008Wh ● 年間消費電力 1,008Wh (月間消費電力) × 12 (月) = 12,096Wh ● 二酸化炭素排出量数値: 1kWhにつき 0.36kgCO₂ (12,096kWh × 0.36kgCO₂ = 4.4kgCO₂ (年間排出量)) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 月間消費電力 100W (年間消費電力) × 720h (24時間 × 30日) = 72,000Wh ● 年間消費電力 72,000Wh (月間消費電力) × 12 (月) = 864,000Wh ● 二酸化炭素排出量数値: 1kWhにつき 0.36kgCO₂ (864,000Wh × 0.36kgCO₂ = 311.04kgCO₂ (年間排出量))
1年後の排出量	4.4kgCO ₂	311kgCO ₂
2年後の排出量	8.8kgCO ₂	622kgCO ₂
3年後の排出量	13.2kgCO ₂	933kgCO ₂

寿命比較



近年、自動車の高性能化が急速に進んでいます。自動車を構成するあらゆる部品の生産現場においても、より精度の高い検査が求められており、検査・認識・位置決めなど、画像処理が製造工程で担う役割がますます重要になってきました。CCSは30,000件以上の撮像経験で培った独自のライティング技術を活かして、自動車部品メーカーの要求に応じた提案を実施しています。このコーナーでは、私たちのライティング・ソリューションの一例をご紹介します。

ピストンリングの文字読み取り



同軸照明を用いて金属表面を均一に照射すれば、ピストンリングの文字・寸法・異物判別検査がハイコントラストで可能となります。

クラッチ板の外観検査



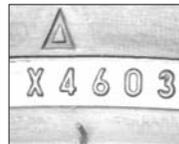
クラッチ板の異物・傷・寸法検査などでは、直射光リングタイプのローアングル照明を用いることで、暗い視野での検出が可能になります。

プラグ電極ギャップ寸法検査



通常、寸法計測では安定して撮像できるバックライトが多用されますが、平行度の高いライティングを施せば、さらに精度の高い寸法測定が可能となります。

タイヤのロットナンバー読み取り

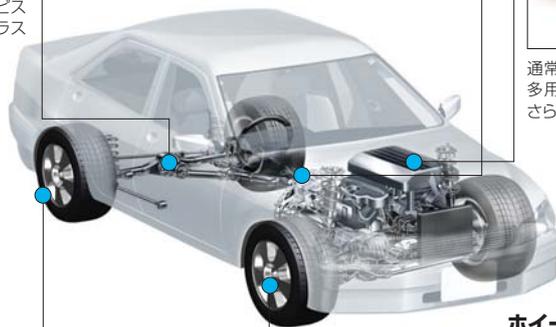


タイヤと同色のため判別がつきにくいロットナンバーの検査には、同軸照明を用いて微かな凹凸の文字を浮き立たせます。

ホイールのロットナンバー読み取り



ホイールに刻印されてあるロットナンバーは、塗装色や刻印部分が多岐にわたるため、柔軟な対応ができる直射光バータイプで文字を浮かび上げさせます。



農業の工業化を目指して研究・開発、そして事業化へ——いよいよ植物

農業の将来、食糧問題、環境問題の解決を考え、CCSが今まで蓄積してきたLEDの制御技術を植物育成に活かさないかと考えたのは今から約5年前。以後、大学との共同研究を重ねると同時に、植物育成実験プラントの建設に向けた準備を進めてきました。研究用途として植物育成装置を発売し、2005年3月にはいよいよプラントが本稼動しました。

植物の光合成は光の波長によって効率が異なることから、必要な波長の光だけを照射できるLEDは植物の生育促進に適した光源です。今までは蛍光灯やナトリウムランプを使った事例が主流でしたが、当社の植物育成実験プラントではLEDを使用。低消費電

力で環境に優しいという利点があるほか、室内であるため無農薬・無菌状態で栽培でき、安心・安全・安定を実現した野菜栽培が可能となります。当面は事業採算性を検証するのが狙いですが、これと並行してより効率的に植物を育成するLED照明システムの開発に取り組んでいきます。



植物育成実験プラントが完成
2004年9月に発表した実験プラントが無事に完成しました。農業の工業化に向けたプロジェクトがいよいよ始動しました。



技術セミナー 野菜の育成状況、光の色でどう変わる？

* 写真はチマサンチュ(韓国カキチシャ)



赤色の光を照射



15日後



赤色の光は、植物の成長を左右する主要な光です。そのため、赤色光のみを照射する実験では、野菜は上方向に伸びるという結果が得られました。



青色の光を照射



15日後



青色の光は、植物の形態形成を左右します。青色光のみを照射する実験では、野菜の色は赤くなるという結果が得られました。



赤色と青色の光を照射



15日後



成長を促す赤色と形態を決める青色の光をミックスした照射実験では、野菜の色づきもよく、健やかに育つという結果が得られました。このことから、赤色光と青色光の組み合わせが野菜の育成にとって最も理想的と言えます。

実験育成プラントが本稼働

事業開発部門リーダーが語る

「農業用照明の可能性」

植物育成装置はCCSの既存の工業用照明とはまったく違うものだけに、大学と共同で基礎研究から始め、4～5年かけて製品化しました。マーケティングの段階で、植物育成に関する研究者がどの程度おられるのかを調査したところ、国内で1,000名以上に及ぶと判明。そのうち同じ研究をされている研究者は二人といないので、できるだけ多くの要望を製品に反映させようと、いろんな研究機関へ足を運んだものです。そのかいあって、多種多様な環境制御ニーズに対応できる植物育成装置「INS-96」として発売にこぎつけることができました。

そして今度はいよいよ植物工場です。発表以来、製薬会社や食品会社、種苗メーカーなどから問い合わせが相次ぎ、農業分野でのLEDの可能性に手応えを感じています。さらにニーズを吸い上げ、植物工場においても研究を続ける計画です。CCSの長年の研究成果が、食糧自給率の低下や自然災害による野菜の価格高騰、あるいは残留農薬問題などの解決の糸口になればと願っています。

事業開発室
主事
武市 真吾



顕微鏡用照明分野

顕微鏡観察の分野でもLED照明に注目が!

顕微鏡分野でも低消費電力・長寿命のLED照明が注目されるようになってきました。そこでCCSは2004年春頃から本格的な開発に着手し、当上半期に実体顕微鏡用LED照明を完成しました。独自の集光技術により、世界に例のない高照度を誇り、かつ従来品に比べて作業スペースを大幅に拡大して作業性の向上を実現しました。サンプルテストにおいても高い評価を獲得した結果、世界の4大顕微鏡メーカーへの採用が決定しました。

今後は顕微鏡用LED照明分野におけるさらなる活躍を目指します。

「CMR-955」

■高照度を実現

独自の集光技術により、白色LED光を対象物に最適に照射することが可能です。

■作業空間を大幅に拡大

独自の取付方式を採用したことにより、照明および対物レンズとステージとの間隔を拡大。作業できる領域を拡張しました。



高照度デュアルファイバ光源ユニット

■集光コントロールが可能

LEDの光をファイバで導光するタイプで、集光範囲を手元でコントロールすることができます。

LED照明がもたらすメリット

発熱量が少ない

他の照明に比べ、LED照明は発熱量が少ないため、火傷の心配もなく、被写体を傷めることもありません。

チラツキがない

LEDは直流点灯方式のため、蛍光灯や白熱灯のようなチラツキがありません。

低消費電力で長寿命

消費電力はわず3.3W。使用環境により異なりますが蛍光灯に比べ数倍長持ちし、ランニングコスト(電力費、交換など)を低減できます。

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科 目	当中間期 2005年1月31日現在	前中間期 2004年1月31日現在
(資産の部)		
1 ▶ 流 動 資 産	2,001,152	1,550,913
現金及び預金	406,005	222,883
受取手形及び売掛金	992,565	929,708
たな卸資産	545,305	358,362
繰延税金資産	41,467	37,642
その他	18,575	9,413
貸倒引当金	△2,767	△7,097
固 定 資 産	845,366	554,698
2 ▶ 有 形 固 定 資 産	690,263	462,240
建物及び構築物	261,484	216,659
工具器具備品	63,411	39,786
その他	2,936	261
土地	239,733	205,534
建物仮勘定	122,700	-
無 形 固 定 資 産	87,259	40,398
投 資 そ の 他 の 資 産	67,842	52,059
繰延税金資産	37,387	29,543
その他	31,955	24,149
貸倒引当金	△1,500	△1,632
資 産 合 計	2,846,518	2,105,612

(単位:千円)

科 目	当中間期 2005年1月31日現在	前中間期 2004年1月31日現在
(負債の部)		
流 動 負 債	427,579	590,952
買掛金	108,514	119,933
3 ▶ 短期借入金	60,000	78,000
1年以内返済予定長期借入金	39,940	138,514
未払金	108,993	107,567
未払法人税等	43,960	91,702
賞与引当金	43,148	40,942
その他	23,022	14,292
固 定 負 債	400,736	426,276
3 ▶ 長期借入金	310,135	350,075
退職給付引当金	12,243	9,707
役員退職慰労引当金	77,327	66,493
繰延税金負債	1,030	-
負 債 合 計	828,315	1,017,228
(資本の部)		
資本金	452,970	205,950
4 ▶ 資本剰余金	568,270	188,250
4 ▶ 利益剰余金	1,009,346	702,194
為替換算調整勘定	△12,383	△8,010
資 本 合 計	2,018,202	1,088,383
負 債 ・ 資 本 合 計	2,846,518	2,105,612



財務セミナー 数字で見るCCS

Point 1 ▶ 流動資産

現金及び預金が1億83百万円増(前年同期比)、たな卸資産が1億86百万円増(前年同期比)となり、総額で4億50百万円増(前年同期比)の20億1百万円となりました。

Point 2 ▶ 有形固定資産

植物育成実験プラントの建設費1億22百万円を含め、1億56百万円の投資を実施しました。植物育成実験プラントは事業採算性の検証と、より効率的に植物を育成するLED照明システムの開発が目的です。

Point 3 ▶ 短期借入金・長期借入金

短期借入金および一年以内返済予定長期借入金の減少、長期借入金の減少により、総額で1億56百万円減(前年同期比)となりました。

Point 4 ▶ 資本金・資本剰余金・利益剰余金

資本金が2億47百万円増(前年同期比)、資本剰余金が3億80百万円増(前年同期比)、利益剰余金が3億7百万円増(前年同期比)となりました。

Point 5 ▶ 売上高

自動車、食品・医薬品業界向けの新規攻めは順調に推移しましたが、電子・半導体の需要悪化の影響を受け、前年同期比17%の増加にとどまりました。

損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで	前中間期 2003年8月1日から 2004年1月31日まで
5 ▶ 売上高	1,687,617	1,436,046
6 ▶ 売上原価	601,854	551,824
売上総利益	1,085,763	884,221
7 ▶ 販売費及び一般管理費	911,981	667,223
営業利益	173,782	216,998
営業外収益	2,681	1,895
受取利息	335	129
為替差益	903	1,290
その他	1,442	475
営業外費用	13,662	6,092
支払利息	3,813	4,414
手形売却損	-	470
新株発行費償却	456	1,207
その他	9,392	-
経常利益	162,800	212,801
特別利益	4,251	-
貸倒引当金戻入額	4,251	-
特別損失	2,375	-
固定資産売却損	2,375	-
税金等調整前当期純利益	164,677	212,801
法人税、住民税及び事業税	56,403	91,000
法人税等調整額	9,184	△12,865
当期純利益	99,089	134,667

Point 6 ▶ 売上原価

生産数の増加、コストを意識したものづくりの推進により、前年同期比2.7%改善しました。

Point 7 ▶ 販売費及び一般管理費

自動車、食品・医薬品業界向けの攻略のための新製品の開発および新規事業の立ち上げに伴う研究開発費および販売促進費の増加により、前年同期比37%増となり、その結果、営業利益は前年同期比20%減となりました。これらの新製品は、下半期以降に売上に貢献するものと予測しています。

Point 8 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益は1億64百万円、売上債権の減少が2億2百万円あ

連結剰余金計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで	前中間期 2003年8月1日から 2004年1月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	550,750	92,770
資本剰余金増加高	17,520	95,480
増資による新株の発行	-	95,480
新株予約権行使による増加高	17,520	-
資本剰余金中間期末残高	568,270	188,250
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	954,956	589,915
利益剰余金増加高	99,089	134,667
中間純利益	99,089	134,667
利益剰余金減少高	44,700	22,388
配当金	29,700	10,388
役員賞与	15,000	12,000
利益剰余金中間期末残高	1,009,346	702,194

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで	前中間期 2003年8月1日から 2004年1月31日まで
8 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	39,136	△19,490
9 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△217,920	△389,326
10 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,483	441,426
現金及び現金同等物に係る換算差額	△760	84
現金及び現金同等物の増加額	△182,028	32,695
現金及び現金同等物の期首残高	552,726	155,163
現金及び現金同等物の中間期末残高	370,697	187,858

たものの、たな卸資産の増加88百万円、法人税等の支払額が1億99百万円あり、当中間期に営業活動の結果得られた資金は39百万円にとどまりました。

Point 9 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

植物育成実験プラントの建設を含む有形固定資産の取得により1億56百万円、新規連結会社であるRDV(S) PTE LTDの株式取得により44百万円の支出があったことから、当中間期に投資活動の結果支出した資金は2億17百万円となりました。

Point10 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

株式発行による収入が35百万円ありましたが、配当金の支払額29百万円等により、当中間期に支出した資金は2百万円となりました。

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2005年1月31日現在	前中間期 2004年1月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,858,226	1,499,987
現金及び預金	283,737	222,883
受取手形	581,500	484,702
売掛金	414,134	450,555
たな卸資産	512,322	320,627
繰延税金資産	35,850	39,962
関係会社短期貸付金	20,722	-
その他	11,733	8,987
貸倒引当金	△1,774	△27,731
固定資産	959,317	621,931
有形固定資産	686,888	459,995
建物	261,276	216,397
車輛運搬具	2,915	-
工具器具備品	60,055	37,802
その他	207	261
土地	239,733	205,534
建物仮勘定	122,700	-
無形固定資産	34,683	35,815
ソフトウェア	34,292	35,425
その他	390	390
投資その他の資産	237,745	126,120
関係会社株式	171,383	60,571
関係会社長期貸付金	-	21,216
繰延税金資産	37,387	33,891
その他	30,474	22,863
貸倒引当金	△1,500	△12,421
資産合計	2,817,543	2,121,919

(単位:千円)

科目	当中間期 2005年1月31日現在	前中間期 2004年1月31日現在
(負債の部)		
流動負債	409,828	594,873
買掛金	100,504	128,674
短期借入金	60,000	78,000
1年以内返済予定長期借入金	39,940	137,840
未払金	112,239	107,667
未払法人税等	37,193	91,702
賞与引当金	43,148	40,942
その他	16,802	10,047
固定負債	399,706	426,276
長期借入金	310,135	350,075
退職給付引当金	12,243	9,707
役員退職慰労引当金	77,327	66,493
負債合計	809,535	1,021,149
(資本の部)		
資本金	452,970	205,950
資本剰余金	568,270	188,250
資本準備金	568,270	188,250
利益剰余金	986,768	706,569
利益準備金	7,000	7,000
任意積立金	898,536	562,020
中間未処分利益	81,232	137,548
資本合計	2,008,008	1,100,769
負債・資本合計	2,817,543	2,121,919

損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2004年8月1日から 2005年1月31日まで	前中間期 2003年8月1日から 2004年1月31日まで
売上高	1,504,799	1,393,294
売上原価	591,193	560,617
売上総利益	913,605	832,676
販売費及び一般管理費	800,070	619,624
営業利益	113,534	213,052
営業外収益	1,272	675
受取利息	333	200
その他	939	475
営業外費用	12,885	17,797
支払利息	3,697	4,123
社債利息	-	290
手形売却損	-	470
為替差損	8,643	11,705
新株発行費償却	456	1,207
その他	88	-
経常利益	101,921	195,930
特別利益	4,251	-
貸倒引当金戻入額	4,251	-
特別損失	2,282	-
固定資産除却損	2,282	-
税金等調整前中間純利益	103,890	195,930
法人税、住民税及び事業税	33,000	91,000
法人税等調整額	3,852	△14,975
中間純利益	67,038	119,905
前期繰越利益	14,193	17,643
中間未処分利益	81,232	137,548

会社概要

社 名：シーシーエス株式会社
 本 社 所 在 地：〒602-8011
 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
 TEL.075-415-8280(代表)
 FAX.075-415-8281(代表)

設 立：1993年10月6日

資 本 金：452,970千円

従 業 員 数：160名(連結) 143名(単独)

取 引 銀 行：UFJ銀行・東京三菱銀行・みずほ銀行・京都銀行

事 業 内 容：●画像処理用LED照明装置及び制御装置の開発、
 製造、販売
 ●植物育成用LED照射装置及び制御装置の開発、
 製造、販売
 ●医療用LED照明応用製品の開発、製造、販売
 ●顕微鏡光源用LED照明装置及び制御装置の開発、
 製造、販売

事 業 所：東京営業所、上海駐在員事務所

関 連 会 社：CCS America Inc.
 RDV(S)PTE LTD
 CCS Europe NV

役員

代表取締役社長 米田 賢治 監 査 役 入 江 英典
 取 締 役 和 田 浩興 監 査 役 河 内 英昭
 取 締 役 安 封 昂雄
 取 締 役 吉 田 新樹

株価の推移(過足ベース)



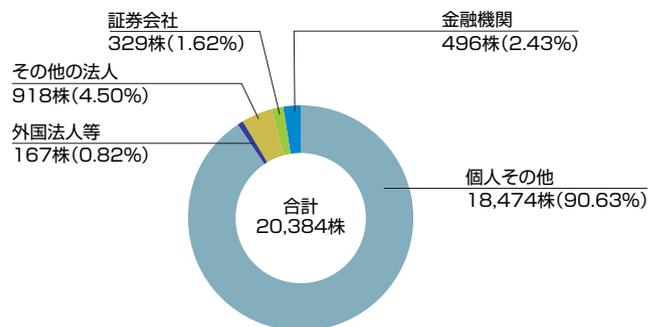
株式の状況

会社が発行する株式の総数：33,600株
 発行済み株式数：20,384株
 売 買 単 位：1株
 株 主 数：3,917名

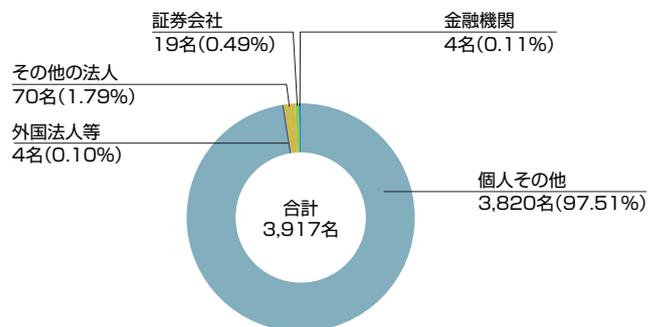
大株主

株主名	持株数	発行済み株式総数に対する所有株式総数
米田賢治	7,750株	38.0%
川端伸一	400株	1.9%
日本証券金融株式会社	339株	1.6%
杉島凱夫	330株	1.6%
シーシーエス従業員持株会	304株	1.4%

持株数別株式分布の状況



所有者別の株主数



株主メモ

決算日 毎年7月31日
定時株主総会 毎年10月
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載新聞 日本経済新聞
決算公告は当社ホームページに掲載します。
株 主 確 定 日 毎年7月31日
中間配当金の支払いを行うときは毎年1月31日
上場証券取引所 JASDAQ
証 券 コ ー ド 6669

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。



シーシーエス株式会社

〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地

お問い合わせ先

E-mail koho@ccs-inc.co.jp
TEL.075-415-8280 FAX.075-415-8281

ホームページのご案内

ホームページにアクセスしていただきますと、当社の各種情報をご覧いただけます。

「投資家情報」のページには、IRニュース、財務ハイライト、株価情報をはじめ、各種開示資料を掲載しています。決算短信や説明会資料は「IR資料ライブラリー」に過去のものから最新のものまでを開示しております。「お問合わせ」のページもございますので、ご意見・ご質問等、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



<http://www.ccs-inc.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



植物性大豆油墨を使用しています。